

キャラクター名
木崎 水色 (きさき みずいろ)

プレイヤー名

シンドローム	ソラリス	ワークス	UGNチルドレンB	カヴァー	高校3年生
オプション	ソラリス	年齢	17歳	性別	女性
覚醒	探求	衝動	妄想	初期侵食率	28 %
出自	比較的裕福な家庭	経験	コスプレ	邂逅	白井 めい

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	0	0	1			1	行動値	4
感覚	0	1	0			1	(非装備時)	4
精神	2	0	0			2	戦闘移動	9
社会	6	0	0			6	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	2		RC	1		交渉	7	
回避	1		知覚			意志			調達	2	
運転:			芸術:ファッション	1		知識:			情報:UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
メジャー	交渉	6r+9				命中対象シーン間、全判定D-5個 (-1)
セット		0				対象次メジャーのC値-1、判定D+6 (+2)

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
すごい服	16	1	-	-	装着している間、交渉値+2する。

所持品	
すごい服	

合計装甲: 1 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	消費
触媒 (対象をインシアで割込ませる)	P	N		
白井 めい	P 友情	N 不安		
コスプレ	P 幸福感	N 偏愛		
時計職人の謎	P 好奇心	N 猜疑心		
エレナ	P 有為	N 隔意		
驒多良 禪	P 好奇心	N 脅威		
時計職人	P	N		

最大財産P: 16 残り財産P: 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
抗いがたき言葉	5	2	メジャー	視界	単体	対決	-	
効果:	命中時シーン間全判定D-Lv個							
コンセントレイト	2	2		至近	自身		-	
効果:								
女王の降臨	2	5	セット	至近	自身	自動	ピュア	
効果:	判定:自動のメジャーを使用する							
狂戦士	3	5	メジャー	視界	単体	自動	80↑	
効果:	対象次判定のC値-1、判定D+Lv*2							
竹馬の友	★							
効果:	幻覚により対象の信頼を獲得する							
虹の香り	★							
効果:	好きな香りをシーン内に発生							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

明るく、友達も多い高校3年生。
しかし、周りには披露できない趣味を持っている。
それが「コスプレ」友人にはもちろん両親にも話していない趣味。
週末や連休を利用してコスプレショップに行ったり、イベントへ参加したりしている。
そんな彼女の趣味を知り、共有できる理解者(?)が一人.....

――とある日曜の日曜日 ※シナリオの日曜日とは関係ありません
「今期のアニメは装飾の凝った衣装が多いなあ...」隣の賑やかな駅。スマホでまともサイトを眺めながら待ち人を待つ
「んん～このキャラの恰好なんかあの子に似合うんじゃない？」これからその子と新作衣装の材料を買いに行くのだ。衣装は手作りである
「私に...そんな露出を...求めないで。」めっとスマホをのぞき込む人物が一人。木崎の独り言も聞いていたようだ
「うわっはあ! ?めい...っ!お、おはようお!!」待ち人来る。彼女は白井めい。木崎の趣味を知る数少ない人物であり、クラスメイトの友人だ
「ごめん遅れた...でも、朝...早すぎ」めいは小さな口をきゅっと結び、あくびに耐えている。めいの舌足らずは寝起きだからではない、生まれつきらしい
「休日はとても短いんだよ! 移動だけでも何時間もかかるんだから!」めいが来るなり、早速動き出す。
「眠い...足動かない...まずは朝ごはん」チクチクと愚痴を漏らしながらついて行くめい

2人の出合いは友好的なものではなかった。
コスプレ衣装を見られた木崎が、めいを口封じに巻き込んだのだ。
だが、めいも今では満更ではなく、元々友達がいなかっためいはなんだかんだ充実感を感じている。
木崎も趣味を共有できるめいのことを大切に思っている。
だが、自身のオーヴァードとしての力、これだけはめいにも明かしてはいない。